皆さん、環境の現状を考えるとき、どのように感じますか？満足ですか？意欲的ですか？悲しいですか？私は時々絶望を感じます。道路脇のゴミを見たり、気候変動の話しを聞いたりすると、無力感が湧いてきます。この危機を食い止めるために私一人で何ができますか。どれくらい影響を与えられますか？政府の介入なしに何か変わりますか。私はずっとこのように感じてきましたが、そうではないことを伝えるために今日ここにいます。持続可能性と日本語と文化への共通の関心を通して、私は自分の無力さの治療法を見つけました。

自然が大好きな両親と一緒に育った私は、つねに環境に配慮してきました。したがって、私の周りの世界の衰退を見るのは非常に苦痛であり、私が個人的に何ができるのか疑問に思うことがよくありました。しかし、日本語に興味を持ったから、答えを見つけられました。高校で日本人留学生と友達になり、日本語を学ぶことへの情熱を発見しました。そして、2017年の夏、栃木県に1ヶ月間留学して、人生が一変しました。

日本での最初の思い出は、飛行機から降りて、色とりどりのゴミ箱が無限に並んでいるように見えたことです。信じられないかもしれませんが、アメリカ人にとって、これはまったく新しい光景でした。アメリカでは、ごみの分別は簡単です：ごみ、リサイクル、ガラスびん、庭のごみです。しかし、日本では、ごみの分別は厳しいです。燃えるごみ、燃えないごみ、ペットボトル、ガラスびん、紙、アルミ缶、その他のプラスチックなどがあります。これは、10時間のフライトを終えたばかりの1年間しか日本語を勉強した経験がない外国人にとっては理解が追いつかないことでした。とはいえ、この瞬間、自分の理想が実践されている国を見つけたと感じました。

さて、右に30歩進んで、おみやげ屋に行ったときの驚きを想像してみてください。ゴミを分別したばかりの人たちが、ダルマを3種類のプラスチックで包んでいます。私はとても困惑し、この矛盾を理解できませんでした。それで、ホストファミリーに片言の日本語で質問しました。答えは、文化的に、包装と見た目がとても大事だということでした。多くの日本人が色や形に隠された気

持ちやメッセージを無意識に理解しています。これを認識したとき、日本の持続可能性は当初考えていたよりもはるかに複雑であることに気づきました。

皆さんはこの話を聞いて、私が何を言いたいのか疑問に思うかもしれません。実は、将来、日本の環境科学者の研究を世界に広めるために、翻訳者になりたいと思っているんです。ただし、これは簡単な作業ではありません。二つの文化の間で翻訳するとき、説明するのが難しい矛盾がよくあります。贈り物を包装することの文化的重要性を理解していなければ、私は日本人を無駄なことをしていると非難したでしょう。同様に、日本人はアメリカ人の不注意なゴミ分別にショックを受けるでしょう。ここで私の出番です。翻訳者として、紛らわしい文化の違いを説明し、日米のためになる持続可能性プロジェクトを通して両国の科学者の架け橋となることができます。

私が言いたいことは、絶望感に屈してはいけないということです。自分の情熱は周りの問題を解決するために使うことができます。必要なのは空港でゴミ箱の列を見ることだけなんです。

ご清聴ありがとうございました。